

こころの伝播力

無関心の壁を 打ち破れ!

「ちょんまげ隊長
ツンさん」
親切の極意

災害ボランティアや障がい者支援のため、北へ南へ、海外へと飛び回っている「ちょんまげ隊長ツンさん」こと、角田寛和さん。一度会ったら忘れられない、ちょんまげ姿。そこには、ツンさんが伝えたい熱い想いが込められていました。角田さんへの「小さな親切」実行章贈呈の様子は、本誌2頁をご覧ください。



今年4月、障がい者サッカー7団体のコロナ対策費に充ててもらったため、チャリティTシャツの収益金を日本障がい者サッカー連盟(JIFF)へ寄附。

最大の敵は無関心

支援活動にはいろいろありますが、一番大切なことは、実際に困っている人たちの現状を「知る」こと。支援の始まりはそこからだと思います。だから、私にとって最大の敵は「無関心」です。私はその壁を打ち破るために、被災地の現状を「伝える」ことにも力を注いできました。「伝える支援」と「知る支援」。それが私の支援のカタチです。ですので、みんなに興味を持ってもらい、覚えてもらうため、どこへ行くにもちょんまげをつけて行きます。要は、「目立とう精神」です(笑)。

ちょんまげ姿で支援に行くと、「ふざけているのか」といふおん叩かれもしました。でも、時間が経てばそうではないことはわかってもええです。批判的な評価でも話題になれば、それだけ現地のことを知ってもらえる機会が増えるのですから、今はありがたい気持ちです。

よく「タフですな」と言われますが、私は全然強くないし、力もない。支援活動も東日本大震災の被災地に行ったのが初めてで、それまではボランティアには無関心の部類でした。でも、そこで現実に出会ってしまったのです。

私が避難所から帰ろうとすると、子どもたちが私のちょんまげを隠したことがあります。「この子たちは、私に帰ってほしくないのだ」と気づき、思わず涙がこぼれました。私にも当時、小学校2年の娘がいましたから、彼らの不安な気持ちがよくわかったのです。つい、「大丈夫。また、来週もくるよ」と言ってしまう、気づけば10年続けていました。

「断続」は力なり

これまで支援活動を続けられたのは、無理をしなかったからだだと思います。義務になったら続かない。だから私は、「継続」ではなく、「断続は力なり」と言っています。

一度だけでやめてもいいし、やりたくないときはやらなくてもいい。

私が組織を作らないのは、団体を維持することに労力を使いたくないのかもしれませんが、好きに動きたいからです。支援活動をするときは、「今度●●へ炊き出しに行くけど、誰か手伝える?」とSNSで呼びかけて、都合のつく人が参加してくれればいい。時間がなければ、1000円寄附してもらっただけでもとても助かります。

自己満足より自己満足

私にとって、ボランティア活動は趣味みたいなもの(笑)。その原動力となっているのは、はっきり言うと「自己満足」です。私の本業は靴屋ですが、商売で心から感謝されることなんて、あまりありません。でも被災地に行けば、涙を流して手を握るおばあさんがいて、嬉しそうに寄ってくる子どもたちがいます。日本だけではなく、世界中から講演を依頼されます。講演はほとんど無料なので商売にはなりません。多くの方と交流もできます。こんな面白い趣味は他にはないですよ。

今回「小さな親切」実行章をいただいている、とても誇らしい気持ちです。表彰されることで、活動を知ってもらうことができるし、その活動を知った人が、何らかの影響を受けたら嬉しいです。そして、「小さな」という言葉がとても気に入りました。各人が今できることをすればいい。そこには、必ず心の動きがあって、次の人へと伝わり新しい展開につながっていく。それは、私のボランティアに対する想いとまったく同じです。

◎ツンさんには、このほかにも参考になる話、家族との秘話などたくさんお話しいただきました。親切運動Webサイトでは、収録しきれなかったインタビューを紹介していますので、ぜひご覧ください!
<https://www.kindness.jp/>

「ちょんまげ隊長ツンさん」の活動は、SNSに随時更新されています。ぜひ、チェックしてください。

Facebook



Twitter: ちょんまげ隊長ツン (ユーザー名@tsunsan)



昨年豪雨被害を受けた熊本県・球磨村での支援活動では、地域の子どもたちを笑顔にするイベントなども開催。

